

1月11日(木)に平成29年度南丹地区学校安全研究協議会を開催し、管内の幼稚園、小・中・義務教育学校、府立学校の教職員など合わせておよそ60名の参加がありました。

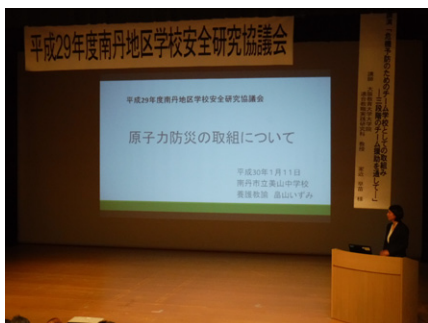
当日は、当教育局指導主事から管内の学校安全に関する課題提起を行い、原子力防災に取り組んでいる小学校からの実践発表や安全教育に関する講演を実施しました。

■ ■ ■ 実践発表 「原子力防災の取組について」

南丹市立美山中学校 畠山 いずみ 養護教諭

危機管理マニュアルによって、登下校時や学校外活動中など状況に応じた災害時の対応を確認していることや、今年度緊急連絡カードを見直し、緊急時の引渡しに関する項目を追加したことなど、原子力防災についてのたくさんの事例を紹介していただきました。

また、放射線に対して正しい知識を持つために行なっている、京都医療科学大学と連携した専門家による生徒への指導や、職員への研修といった取組についても発表していただきました。



参加者の感想	<p>○避難訓練や安全指導という取組だけでなく「放射線・放射能」についての正しい理解を深める研修を取り入れていることが大変参考になりました。また地域との連携を視野に入れた訓練は、実際の場面で必ず想定されるものであり、自校において訓練のための訓練にならない工夫が必要だと感じました。(小学校)</p> <p>○本校は美山町民の避難場所となっており、教職員や生徒にも原子力防災について学ぶ場が必要だと感じています。教科の中(理科)では取扱ったりしていますが、正しい知識を入れることが大切だと思いました。本校でも緊急連絡カードの見直しを考えており、あらゆる事案を考えることができました。(中学校)</p>
--------	---

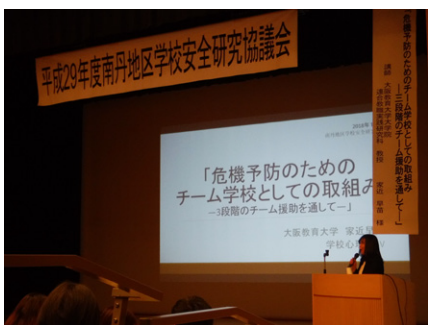
■ ■ ■ 講演 「危機予防のためのチーム学校としての取組み — 3段階のチーム援助を通して—」

大阪教育大学大学院 連合教職実践研究科 教授 家近 早苗 氏

近年の学校を取り巻く多様な問題を受けて、個人ではなくチーム学校として対応することの重要性について講演していただきました。

学校における既存の組織として、生徒指導委員会や学年会といったコーディネーション委員会を活用することや、チームでの活動に抵抗を示すメンバーへの理解や尊重が必要であることを教えていただきました。

また、メンバーが力以上の成果を生み出す「ほんものチーム」になるには、目標を共有し、自由な雰囲気でも議論できるように、小さな一歩でもできたことを認め合える関係づくりが重要だと話していただきました。



参加者の感想	<p>○チームとしてのメリット、強みを知り、改めて「チーム学校」として組織的に取り組むことが大切だと思った。担任をもたない養護教諭としての立場なので、共感できること、参考にしたいことも多く、今後の自園での取組にも活かしていきたい。(幼稚園)</p> <p>○機能する組織についての説明は大変参考になりました。学校に適應できない児童が年々増えている今、チームとしてどうやって対応していくのか悩んでいました。やはり組織の見直しや改革が必要だと思いました。コーディネーション委員会の仕組みやほんものチームになるための話は非常に勉強になりました。(小学校)</p> <p>○本校の現状と置き換えて話を聞くことができた。改善していくためには、問題状況(危機状況)を共有し、それが起こる要因を把握することが大切であることが分かった。このシステム作りをしていくことから始めたいと思う。(府立学校)</p>
--------	---